

令和 8 年度 救助技術の高度化等検討会（第 2 回）

「CBRNE 災害等に対応する装備資機材への新技術の活用等」

議事概要

1 日時：令和 8 年 6 月 12 日（金）14:00～16:00

2 場所：東京都千代田区霞が関 2 丁目 1 番 2 号

中央合同庁舎第 2 号館 8 階 第 1 特別会議室（WEB 会議とのハイブリッド開催）

3 出席者（敬称略）

【委員】

〈有識者〉吉田悦教（座長）、小井土雄一、濱田昌彦、宮口一

〈消防機関〉倉澤和外、千村俊明（代理）、中嶋仁美

【オブザーバー】

〈関係機関〉河本良太、櫻木敬士、曾根拓磨、田口穂香、中務智彰

〈消防庁〉上田耕平、鈴木知基、辻正一、鶴見純、吉田正嗣

4 議事内容

（1）あいさつ（消防庁国民保護・防災部参事官 櫻井）

（2）議題

ア CBRNE 及び大規模災害に対処する国内外の最新資機材等報告

船山株式会社、櫻護謨株式会社、株式会社モリタから説明、質疑

イ 中間とりまとめ骨子（案）について

資料 4 を事務局にて説明

ウ 分科会の設置について

資料5を事務局にて説明

エ 意見交換

【意見】

(委員) 新技術あるいは新装備を導入したとしても、整備が必要なことや古くなると運用、使用することができないという問題があるので、更新やメンテナンス体制も視野に入れることが大切。

(事務局) 予算や制度面における課題があるため、即座の対応は困難な状況ではあるが、今後どのような対応が可能であるか、引き続き考えていきたい。

(委員) RSDL は、新技術ではないが日本にはないものであり話を進めていただきたいと思う。今後、エボラ出血熱が入ってくるかもしれない、一番の危機と認識している。消防本部によっては、搬送用アイソレーターを保有しているが、日本全体としての保有数は分からない。搬送用アイソレーターの保有数が不十分であれば、ここの中に入れていくべき事項なのかも知れない。

(事務局) 今後の中間取りまとめに向けて、相談しながら書きぶり等を考えていきたい。

(座長) 従来の消防資機材は、国が法律で安全基準を定めているほか自主的に耐久試験や安全性を確保していると思うが、新技術や新資機材の場合、不具合や誤検知のリスクがあり途中で故障して使用できなくなる可能性もある。使用する隊員や国民の生命に関わることなので、性能や保証期間等がどう担保されているのか、他の機関のことも参考にしてできる範囲でまとめていただきたい。

(3) その他

ア 次回の予定等

イ あいさつ (消防庁国民保護・防災部参事官 櫻井)